

平成26年度 京都市立北総合支援学校 学校経営計画

学校教育の重点

(子ども像) 伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども
(教職員像) 確かなビジョンと力量を持つ教職員
(学校像) 市民ぐるみ・地域ぐるみの教育の核となる学校

<学校教育の基本方針>

～ 確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた育成 ～

(平成26年度重点項目)

- つけたい力を明確にした「言語活動」
- 自律心と責任感の育成を目指した「協働活動」

学校教育目標

自分から（主体性）、自分で（自立）、自分らしく（自己の確立）、
みんなとともに（社会性・協働性）、生きる子どもの育成

<目指す子ども像>

- 挨拶をする子 ○掃除をする子 ○時間を守る子
「楽しさを期待して登校し、楽しさを感じながら学校で生活し、楽しさに満足して下校する」

<目指す職員像>

「時を守り、場を正し、礼を尽くす」
<5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）の実践>

- ①教育公務員としての自覚を持ち、市民から信頼を得る職員
- ②専門職の自覚と向上心を持ち、資質と専門性、指導力の向上を目指す職員
- ③整理整頓をし、児童生徒が安全安心に過ごせる学習環境を設定できる職員
- ④人権・安全を基盤に、よき支援者・モデルとして児童生徒・保護者から信頼を得る職員
- ⑤それぞれのポジションワークの中で、同僚から信頼を得る職員

<目指す学校像>

「ノーマライゼーションの具現化に向けて、総合育成支援教育をリードする学校」

- ①地域とともに歩む学校
- ②高い専門性を持ち、市民・保護者に信頼される学校
- ③児童生徒が安心して生きる力を育む、安全で楽しい学校
- ④鋭い人権感覚に基づき、一人一人の子どもが大切にされる学校
- ⑤組織的運営と効率的運営に取り組む学校

総合支援学校

障害種別による
【場】の教育を超える

総合育成支援教育相談センター

学校という【場】の教育を超える

地域支援ネットワーク

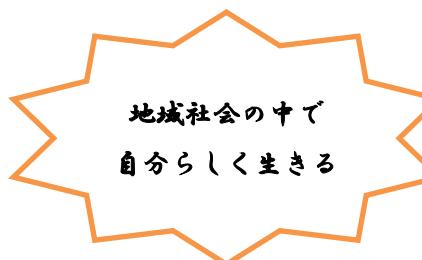
小学校、中学校、高等学校等という学校の
【場】を超える

センター機能と地域支援システムの融合

（総合支援学校総体がセンター機能）

ライフスタイルやライフステージの
変化に応じた継続的なサービスの提供

個別の包括支援プランの活用



地域にねぎした文化と伝統の創造

総合支援学校

- 【マネジメント部門】 学校経営システムの充実
- 【ティーチング部門】 指導実践の充実
専門性の向上

育支援センター

- 【コーディネート部門】 地域支援システムの充実
ネットワークの構築
(行政的機能の付加)
- 【学校サポートチーム】

【サポート部門】

- 校内実践・地域支援・機関連携の充実
専門性の向上

<総務部活動方針>

- 学校経営の課題を分析し、その結果を具体的な活動として計画する。
- 日常の安全管理、危機管理、地域啓発、年間計画等、学校運営の基盤となる事項を管理する。

<指導部活動方針>

- 子どもの「生きる力」と生涯にわたる支援を目指した、個別の包括支援プランに基づく教育を推進する。
- 一人一人の社会参加・自立を目指した教育課程の実践と評価を行う。

<支援部活動方針>

- 校内及び地域の学校（園）における、一人一人の子どもの教育的ニーズに応じた指導を支援する。
- 地域における相談センターとしての機能の充実を図るとともに、各関係機関と連携し、一人一人の子どもの地域での生活基盤づくりを支援する。

学部目標 → 学年目標 → 学級目標

